



平成22年度 後期高齢者医療制度 のお知らせ

～75歳以上の方へ～

平成22年度 後期高齢者医療保険料 が決定

平成21年中の所得に基づき、平成22年度後期高齢者医療保険料を決定しました。

「保険料額決定通知書」をお送りしましたので、内容をご確認ください。

※特別徴収(年金天引き)の方は4・6・8月に暫定的に仮徴収させていただきます。

10月以降の保険料は、今回確定した年額から仮徴収(4・6・8月)される保険料額を差し引き、残りを10・12・2月の納期で割った額が年金天引きされることになります。



保険料のお支払方法

保険料のお支払方法は2種類です。

① 特別徴収(年金天引き)

◆対象

・年金受給額が年額18万円以上の方
(手続き不要)

② 普通徴収(口座振替又は納付書)

◆対象

・年金受給額が年額18万円未満の方
・後期高齢者医療保険料と介護保険料の合計が年金受給額の2分の1を超える方。

支払い方法を変更する場合

◎年金天引きから口座振替に変更の場合

年金天引きを中止する手続きには約3カ月かかりますので、希望される方は早めに届出をしてください。

◆ 申出窓口

国保年金課 後期高齢者医療係
(小城庁舎)

◆ 持参するもの

・預金通帳
・お届出印

(注)納付書又は口座振替を年金天引に変更することはできません。

減額認定証をお持ちの方へ

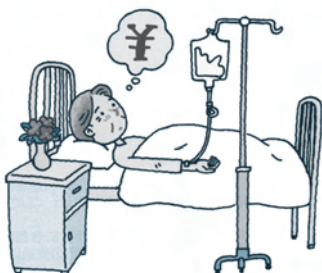
後期高齢者医療限度額適用・標準負担減額認定証更新のお知らせ

現在使用している減額認定証の有効期限は平成22年7月31日までになっています。

8月以降も該当になれば新しい認定証を7月中に交付(送付)します。認定証の更新手続きは不要です。

「後期高齢者医療限度額適用・標準負担額減額認定証」とは?

医療機関に提示すると医療費の一部負担限度額及び入院時食事療養費が減額されます。非課税世帯の被保険者の方が交付を受けることができます。



後期高齢者医療被保険者証の更新時期です

今お持ちの被保険者証（草色）は平成22年7月31日で有効期限が切れます。

新しい被保険者証（橙色）を、7月中旬に【簡易書留】でお届けしますので、8月以降は新しい被保険者証をご使用ください。

なお、今お持ちの被保険者証（草色）は、7月31日以降は、裁断等をして廃棄していただくか、小城市役所各庁舎総合窓口、もしくは国保年金課 後期高齢者医療担当に返却してください。

◆被保険者証の色

【旧】草色 → 【新】^{だんご}橙色

◆お願い

新しい被保険者証が届いたら、住所・氏名・性別・生年月日のご確認をお願いします。

もし、記載内容に誤りがある場合は、左記までご連絡ください。

【問合せ】国保年金課

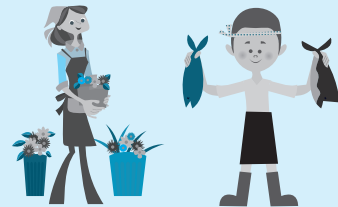
後期高齢者医療係（小城市庁舎）

担当 小柳・於保

☎ 73-88002

国民健康保険 からのお知らせ

～国民健康保険に加入の方へ～



◎国民健康保険被保険者証

有効期限は7月31日です
手続きは不要です。

現在お持ちの被保険者証は平成22年7月31日が有効期限となっています。期限が切れた後は、裁断等をして廃棄してください。

なお、新しい被保険者証を7月中旬に【簡易書留】（水色の窓あき封筒）でお届けしますので、8月以降にご使用ください。
被保険者証の色は次のように変わります。

◆被保険者証の色

・一般被保険者証

【旧】藤色 → 【新】レモン色

・退職被保険者証

【旧】緑色 → 【新】桃色

◎「限度額適用認定証」

「限度額適用・標準負担額減額認定証」の

有効期限は7月31日です

更新には手続が必要ですよ。

現在、それぞれの認定証をお持ちの方は、更新のための申請書を7月中旬にお届けします。

お近くの総合窓口で手続きを行ってください。

国保の

「限度額適用認定証」

「限度額適用・標準負担額減額認定証」

一部医療機関に入院の場合の窓口負担は、限度額までとなります。限度額は所得によって異なりますので、「限度額適用認定証」（住民税非課税世帯は「限度額適用・標準負担額減額認定証」）の提示が必要となります。入院の際は、あらかじめ交付申請を行ってください。

【問合せ】国保年金課（小城市庁舎）

担当 高塚・岩本

☎ 73-88002

●まちの話題

サガン鳥栖 松本監督熱く語る

6月21日（月）、牛津中学校で「豊かな心を育む教育」事業並びに平成20年に提携した小城市との交流宣言事業の一環として、サガン鳥栖監督の松本育夫氏を講師に招いて講演会を開催しました。

「人生へのチャレンジ」と題しての講演会には、牛津中学校全校生徒約300人・保護者・教職員など多数が参加し、松本監督のこれまでの数多くの輝かしい活躍、辛い体験、数多くの素晴らしい人達との出会いなどを通じて感じた事や今も変わらぬサッカーに対する思いなどを熱く語られました。

人生を送る上で「目標を持ち、行動に移し、しかも継続する事が大切である」など、中体連を直前に控えた生徒達に熱いエールを送られました。

